

1 学校長あいさつ

2 各委員の自己紹介

3 会長、副会長の選出

- ・会長は石井雅隆さんの立候補により決定
- ・副会長は事務局より、藤原校長を提案し承認を明けた。

4 函南町教育委員会事務局 石井恒男指導主事より

- ・概要について説明

5 協議

（1）今年度の学校経営について

令和4年度学校運営の基本方針を学校長より説明。その後、質問等を求めたが参加者からは出されなかった。承認を求めたところ、全員より拍手を持って承認いただいた。

（2）各委員より

ア 鈴木委員より

- ・函南小に地域学校協働活動推進委員の立場として2年間学校に入らせてもらっている。
1時間目から授業には入れず、それに対応する担任、支援員さんの姿を見ることが多く、特に低学年の担任の大変さを実感した。先生方や支援員さんたちが授業に専念できるお手伝いが出来ると良いと感じる。

→石井委員の「サポートの発信方法にはどんな方法があるか」の質問に対して

- ・学区が数多く、広いこともサポートがうまくいっていない原因となっている。地区でポイントとなる人を見つけていけば違ってくる。まず、区長さんたちと話をしていくのも一つの方法と考える。
- ・函南小では、おやじの会にしても、読書ボランティアにしても、防災キャンプの消防団

の協力にしても、函南小は点としての活動は出来ている。その点を結んで線になっていけば、よりよい活動が出来るはずである。

- ・学校から情報発信をしてほしい。そして、それを受ける側も、やることの指示を待つのではなくて、自分たちで考え、学校のため、子どもたちの為にできることは何かを考えて、自発的に、一歩踏み出して活動ができれば良いと考える。

イ 辻委員より

- ・読書に力を入れる方針には賛成である。この会合でも2年間何度となく話題に出てきた。今の若者はネットに強いが、本を読まないのも、SNSを見ていても、単語が並んでいる文章が多い。読書に力を入れるとともに、自分の言葉をつないで表現していけるように小学校段階から指導してほしい。
- ・私は三島で古墳関係で、学校の子どもたちに話をする機会がある。函南町でも、学校に働きかける仕組みを作っていってほしい。

ウ 山地委員より

- ・読書ボランティアとして学校の活動に参加している。休み時間を見ていると、低学年の子どもたちは借りに来る子どもが多い。本を読まないという話題が出ていたが、始めから読まないわけではなく、大きくなり離れてしまっている子どもがいること、そして、家では読んでいないが、学校では読んでおり、家と学校での姿が違うのが一つの事実ではないかと感じている。
- ・教室にいられない子どもへの対応が本当に大変であると感じる。図書室にいる場合は司書も、その子どもに対応してくださっているが、対応しているときは司書の仕事は出来ない。それは、支援員さんも一緒に、一人の子どもに対応しているときは、教室の子どもへの支援は出来なくなってしまう。お手伝いできることがあれば、参加したい。

エ 藤原校長より

→石井委員の「サポートの発信方法にはどんな方法があるか」の質問に対して

この会合はお願いする会ではないので、それを前提として聞いてほしい。

最初に考えられるのは、やはりPTAにお願いすること。また、町教委でボランティアをとりまとめているので、そこにピンポイントで頼むこともある。また、最近では、クラブ活動に地域人材を活用しているが、その講座を増やすために鈴木委員の立場（地域学校協働活動推進委員）にお願いし、実際に増やしてもらった。

現在、函南町ではこの地域学校協働活動推進委員は、丹那小と桑村小と西小にだけである。本校は鈴木委員に兼任してもらっている形である。将来的には、各校に1名担当を配置する予定で進めている。

オ 梅原委員より

→石井委員の「サポートの発信方法にはどんな方法があるか」の質問に対して

- ・仁田区では、子どもたちに関係することでは、年に二回、区の協議委員と有志に集ってもらい堤防の草刈りに取り組んでいる。また、区内の危ない交差点について、町や警察に働きかけて、ポール等の安全設備を取り付ける活動にも取り組んでいる。要望があって、協力できることがあればやっていきたい。
- ・この会合に、仁田区長のための参加となっているが、学区の他の区長にも参加していただくと良いと感じる。

6 その他

会合だけではなく、お知らせした行事等にも学校に来てもらい、子どもたちの様子を見てほしいことを依頼した。